

海田南小学校 授業紹介 コーナー

(ここでは、海田南小学校の様々な先生達の授業の様子を随時紹介しています。)

5月 17日	第4学年1組	算数科	授業者(小川 美恵子 教諭)
NO.4	参観者(校長・主幹・西村・今井・津田)		記入者 (校長 重森)

【1】 授業の概要

角の大きさを調べる学習です。これまでに 180° までの角度は測ることができている子供たちですが、今日は 180° を超える大きさの角をどうやって調べたらいいのかな、という学習でした。『 180° より大きい角度のはかり方を考え説明しよう。』と板書し、「めあてを書いたら背骨で教えてください。」と「めあてこ」を意識した始まりでした。個人の自力解決に時間を十分にとって、いよいよ解き方の説明です。ハリーポッターのつえを使いながら、前に出て、自分の言葉をつかって説明する子供たちです。『分割して足す方式』と『 360° から引く方式』の2種類が出た後、小川先生は『自分はどちらの方法で解いたのかな。』と確認させていました。適応題も自分が解きやすい方法を活用することができている子供たちでした。

【2】 授業の素晴らしい点と学び

① 子供から算数の「考え方」を引き出し、大事にする授業

180° を超える角の大きさの調べ方を、こどもたちは2種類出しました。一つは補助線を引いて、 180° を超える部分を分度器で測って $180^\circ + 30^\circ$ をする方法。2つ目は、 360° から 150° を引く方法です。子供たちにとっては 150° の部分は見えていても、はかり方がわからなかったのですが、一人の子が前で説明する時に、「こうやって、紙をひっくり返して、こうやって測りました。」と実際に見せてくれたのです。小川先生はこれをとらえて、「なるほど、こうやって紙をひっくり返したらよくわかるね。」とあらためて、子供がよくわかる見え方を確認していました。また、「この2種類に考え方の、それぞれのポイントは何か?」と問い、考え方を、漠然と2種類あったとするのではなく、『たす方式』と『ひく方式』に整理していました。

② 算数の学んだことを練習する時間をきちんと確保する授業

180° を超える角の大きさを測る方法を知っただけでは、使えない場合があります。子供たちが『わかる』のあと『できる』ようにするには、算数の時間の中で、『練習する』『使ってみる』ことが大切です。特に分度器は、子供たちにとって初めて使う道具ですので、何度も使って、基点をあわせたり、メモリのどちら側を読むかを判断して測り取る経験は多く必要なのです。小川先生は、45分の授業のうち、『考えて分かる』までに35分間、そのあと10分間できっちり練習問題を解かせる時間をとっておられました。

③ いつも美しい文字で分かりやすい板書

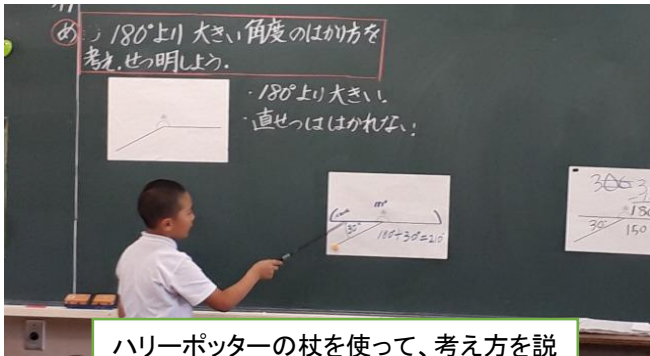
小川先生の板書は、どの授業を見ても、いつも丁寧で分かりやすいのです。『日付』『めあて』『子どもたちの考え』『まとめ』という内容をキーワードで整理され、授業の最後に板書を見るだけで、1時間の流れがはつきりとわかります。「先生！書くんですか？」時々子供たちが聞いていますが、小川先生は「書きたい人は(必要のある人は)書きます！」と板書の意味を教えています。板書を全部ノートに写す必要はありません。大事な点を、取捨選択して、後で見ても必要な情報を、自分で考えて(JAK)書いておくのがノートです。写すことに一生懸命で、大切な学習(自分で考える)をなおざりにしないように、小川先生は声をかけていました。



自力解決の時間。自分の考えで問題を解いてい



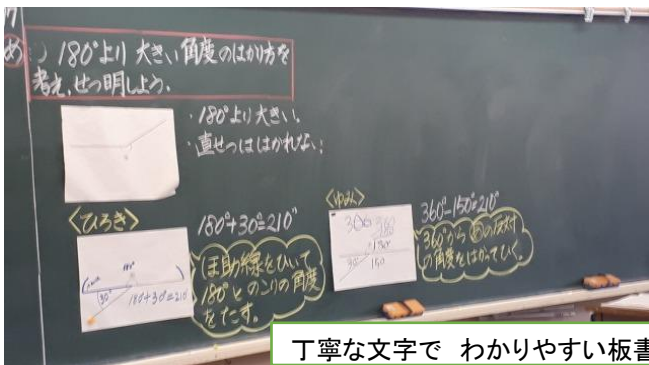
自分で解いたらみんなに発表して聞いてもらいた



ハリーポッターの杖を使って、考え方を説



紙をこうやってひっくり返したらわかりやすい



丁寧な文字で わかりやすい板書で